

						授業コード*		5087	
授業科目	成熟期看護学実習3 (実践と理論の統合2) Nursing Practice of Adults 3 (Integrating Theory into Practice 2)	責任教員	古川 直美 北村 直子	単位数	1	科目区分	必修	科目履修	不可
				時間数	45	開講セメスター	5・6		
目的と目標	成熟期看護の実践と理論の統合を通じて、成熟期看護のあり方について考えを深める。 1. 成熟期にある人々とその家族への看護実践を振り返り、成熟期看護の課題と自己の課題を明らかにする。 2. グループワーク及び発表と討議において、実習2で学んだことを共有し、理論との統合を図る。 そのために、自らの体験を語り、他の学生の体験を理解し、看護の意味づけを行う。 3. 主体的にグループワーク及び発表と討議を運営する。 4. 自らの体験と他者の体験を踏まえ、成熟期看護に対する自己の見方・考え方を考察し、レポートにまとめる。								
回数	学修課題	内容並びに方法							担当教員
	労働の場、急性期治療を目的とする施設、生活の場への移行および生活支援を目的とする施設での看護実践の体験を振り返り、グループワークを通じて成熟期看護の特質を理解する	成熟期看護学実習2の後に、学生が実習を通して学んだことを基に個人ワーク及びグループワークを行い、成熟期各期にある人(家族)の生活実態と発達課題、健康問題への個人・家族・生活集団・地域の取り組みと看護援助等について考察する。 1. 実習のまとめ 1) 実践と理論の統合2-① 担当教員と面接 2) 実践と理論の統合2-② 1日目 午前：担当教員との面接、各自の実習体験の振り返り 1日目 午後：オリエンテーション 1日目 午後～3日目：個人ワークおよびグループワーク <グループワーク> ①成熟期看護学実習2において、各自が受け持って看護を実践した事例について、対象の概要、健康課題、実施した援助と目的、意図、意味、評価、実践からの学びと事例を踏まえて考えた成熟期看護において重要なこと、その理由についてお互いに紹介し、共有する。その際、実習施設・病棟の概要や特徴について紹介する。 共有する際には、実習要綱に示されている「IV. 対象理解及び援助の視点」を活用する。 ②共有した看護実践体験を基に、成熟期看護に関連しグループで話し合いたいことについてテーマを設定し、これまでの授業内容も踏まえて討議する。 ③グループメンバーとして責任と役割を果たせたか自己評価を行う。 4日目：「発表と討議」 個人ワークとグループワークを踏まえ、具体事例を提示しながら討議を行い、成熟期看護学への理解を深める。 実習レポート作成 *実習記録、領域別実習要綱、実習1・2で配布した資料を持参する							成熟期看護学領域全教員
評価方法	個人ワーク・グループワークおよび発表と討議の参加状況・貢献度(リーダーシップ・メンバーシップの発揮)50% 実習レポート50%								
参考と資料	3年次領域別実習要綱、成熟期看護学概論・成熟期看護方法1～9までの授業資料および授業で紹介された文献等								
事前準備									
受講要件	成熟期看護学実習1、2に出席していること。								